

1 単元名 けがの防止

2 単元について

本単元は、学習指導要領「G 保健」「(2) けがの防止」を受けて設定している。けがの発生要因や防止の方法について理解するとともに、けがが発生したときには、その症状の悪化を防ぐために速やかに手当ができるようにすることを目的としている。

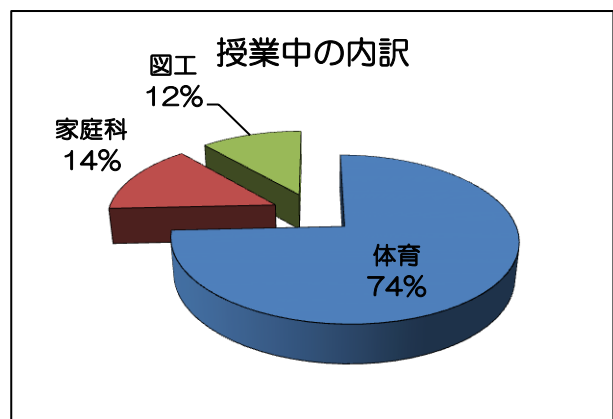
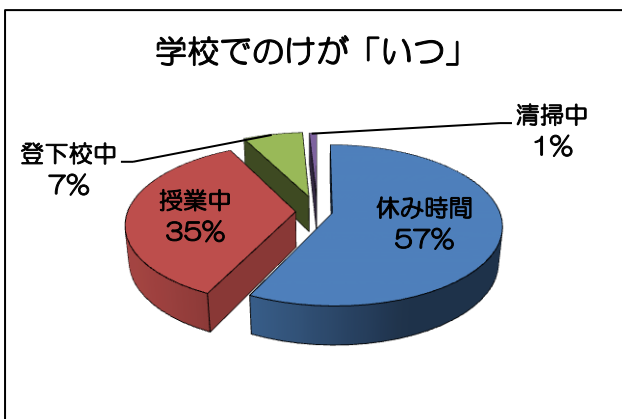
子どもたちが日常生活の中でけがをすることは少なくない。日本スポーツ振興センターの基本統計では、学校管理下における負傷事故の発生件数は減少傾向にあるものの、平成21年度から22年度にかけては10,000件以上も増加している。(学校管理下の災害-23-, -24-より)本校の子どもの様子を見ても、まわりの状況を把握せず全力で走り他の子どもとぶつかってしまったり、遊びに夢中になって足元を確認せずに転んですりむいてしまったりすることがよくある。

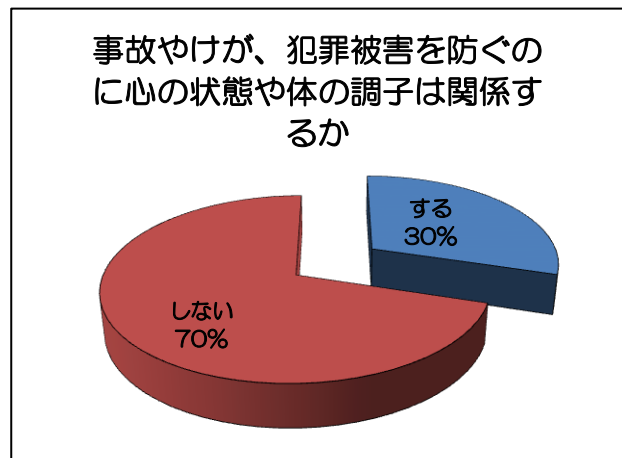
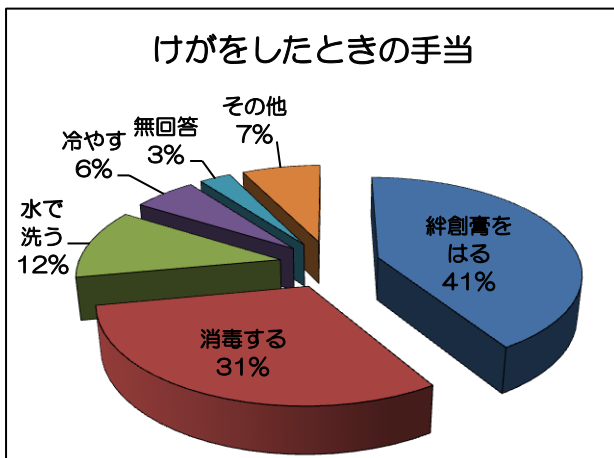
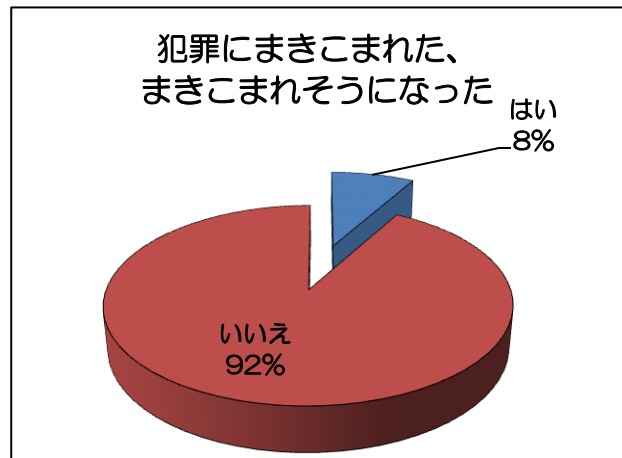
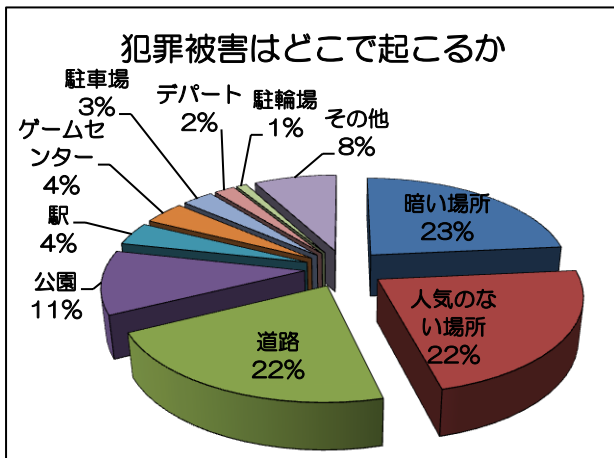
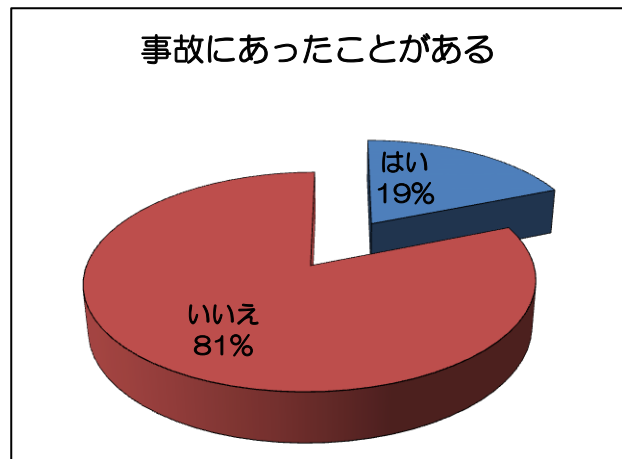
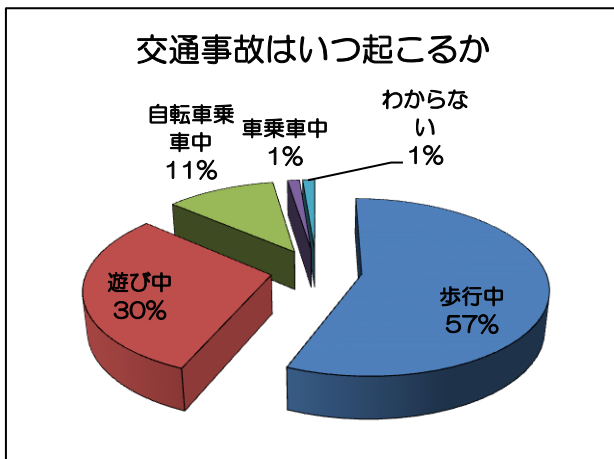
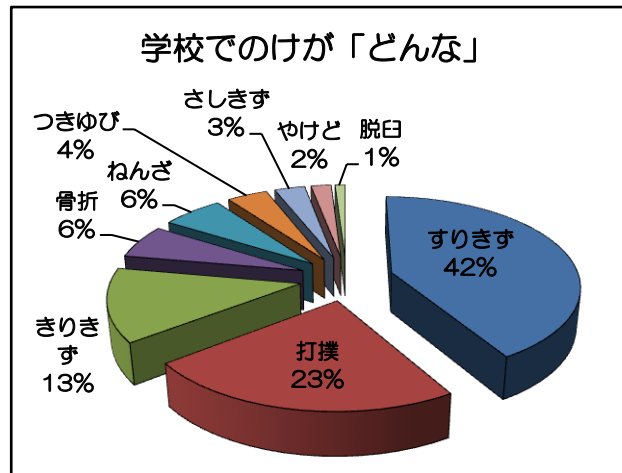
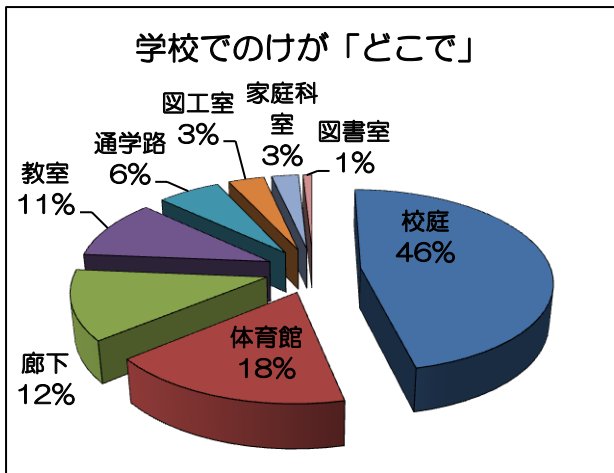
けがをしてしまうことには原因がある。したがって、けがの原因を取り除けば、大部分のけがは防止できるはずである。同様に、学校生活の事故、交通事故、水の事故、犯罪被害なども原因を取り除くことができれば防ぐことができるはずである。けがや事故が起こりそうな状況を予測し、未然に安全な行動を判断、選択する能力を身に付けることは、子どもが自分の命を自分で守り安全な生活を送る上で、極めて重要なことであると考えます。

そのためにも、自分の生活をじっくりと見つめさせることに重点をおいた学習が必要である。このような学習を進めていけば、子どものもっている知識や新たな知識を生活に生かせるようになる。今の自分がどのように生活しているのか、今もっている知識や気付いたこと、感じたこと、学んだことなどを自分の生活の中にどう取り込んでいくのかをしっかりと考え、自分の生活に生かされたとき、初めて生きる力が身に付いたと言えるのではないだろうか。そのために、本当に自分の生活で実行できるのか、また実行するにはどうしたらよいか具体的に考えさせていきたい。また、友達とかかわり合い、友達の意見や考えに触れもう一度自分の考えを見つめることで、より自分のことを深く見つめることができると考える。

そこで、具体的な事例を提示しながらけがや事故が起こる要因を考えることで、危険予知能力を高め、安全な行動をとったり、けがをしないための環境を整えたりする態度を養うことができるのではないかと考えた。まず、子どもが実際にけがをしたり事故にあったりした経験をもとに、けがや事故につながる危険な行為や危険が予測される環境について探し、その理由を明らかにしながら、けがや事故の防止への意識化、実践化を図りたい。また、水の事故や地震などの災害に目を向けながら、日頃の心構えや被害を最小限にとどめるための行動の大切さを伝えていきたい。けがをした場合の手当については、養護教諭と連携して指導し、子どもが適切に処置できるようにしたい。

3 児童の実態 (男子20名、女子18名、計38名)





<考察>

本学級の子どもたちは休み時間には、校庭でボール遊びや鬼ごっこをしたり、一輪車乗りをしたりする元気な子どもが多い。遊び時間に転んですりむいたり、工作の時間にカッターで指を切ったりといった軽度なけがは日常的に見られる。ダンスの時間に転んで床に顎をぶつけ病院に行くけがもあった。帰宅後の生活の中では、習い事で腕を骨折した子どももいた。

本校の近くには稲毛駅前から海岸へつづく大きな道路があり、バスや自動車の交通量が多い。また、一方通行の狭い道や、ガードレール、歩道のない道路もいくつもある。5年生ではないが、つい最近交通事故にあい、骨折してしまった子どももいる。高学年になると自転車遊びに行ったり習い事に行ったりする機会も増えてくる。道路を並走しながら走っている場面もときどき見かける。

アンケートの調査によると、38名全員にけがをした経験がある。子どもが今までに学校生活で経験したけがで多いものは、擦り傷、打撲、切り傷の順で、半分以上が休み時間に起きている。また、授業中では、体育の時間が一番多い。事故やけがの原因、学校でのけがの防止の学習では、導入時にけがをした時のことを想起させ、これから学習することが自分の生活にかかわっていることを意識させたい。また、交通事故や犯罪被害については、人数は多くないものの、事故にあったことがある、犯罪に巻き込まれそうになったことがある子どももいる。事故や犯罪被害も身近に起こりうることに気付かせたい。けがをした時の対処方法としては、多くの子どもが「絆創膏を貼る」とか「消毒する」といった何らかの処置をしているが、「水で洗う」子どもが少なく、「ほっておく」や「無回答」の子どももいた。また、実際のけがの場面では、傷口に砂をつけたまま保健室に行こうとする子どもがいるなど、自分で対処できる軽いけがの処置について、正しい知識が十分に身に付いていないと感じる。

このような子どもの実態から、子どもの身近にある内容（できごとや場面など）を取り上げ、子どもの興味・関心を高め確かな知識の定着につなげていきたい。そのために、提示資料を工夫したり養護教諭と連携をはかったりすることが必要だと考える。また、体験的な活動や課題解決的な活動を導入し、自らの課題を主体的に考え、判断し、解決していく力を育てる工夫も必要である。

4 単元の目標

- けがの防止について理解できるようにし、身近な生活において健康で安全な生活を営む資質や能力を育てる。

5 視点と学習の手立て

(1) 市教研体育部の研究主題

生涯にわたって健康を保持増進し、運動に親しむ子どもを育てる体育学習

(2) 研究の視点

視点4 身近な生活から健康・安全についての課題を見付け、解決することができるような学習過程を工夫する。

<手立て>（本時にかかわる手立て◎）

◎ 自分の生活と結び付けて、課題を発見したり実践方法を考えたりさせるための工夫

- ・ 身近な生活の中から課題を発見できるように、導入において、自分の経験を想起させるような発問を工夫する。
- ・ 課題意識を高めるために、自校や地域での事例を使った具体的な資料を活用する。

◎ 子どもの主体性を大切にし、学習内容について考える学習過程の工夫

- ・ 1時間の授業を **自分のことだと意識をもつ** → **知る** → **活用する** → **生かす** という学習プロセスを柱に展開する。
- ・ 子どもが思考する場面では、時間を十分に確保する。
- ・ 子どもの思考過程がわかるような学習カードを工夫する。

- ◎ 自分の考えを深めたり、広げたりするための話し合い活動の工夫
 - ・ 安全に対する意識や実践への意欲を高めるために、グループでの話し合い活動を毎時取り入れ、友達の考えに触れさせたり自分との違いを比較検討させたりする。
- ※ 本時は、学校生によるけがの防止と交通事故の防止をについて学習した知識を、犯罪被害の防止に活用したり、犯罪被害の起こりやすい場所の共通点を見付けたりする場面である。この場面で資料を基に自分の生活と比較したり、身近な生活との関係を見付けたりするなどして考えたり、話し合ったりすることで、犯罪被害の防止について理解を深めることができると考える。
- 養護教諭との TT 指導の活用
 - ・ 小単元「けがの手当」では、理解を深めるために、養護教諭との TT 指導を行い、専門的な知識の説明や実習の指導をする。
- 理解を確実にするための体験的学習の活用
 - ・ 学習した内容を確実に身に付けさせるために、学校内や地域施設の調べ活動やグループでのけがの手当について実習する活動を取り入れる。

5 評価規準（おおむね満足できる状況）

健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
○けがの防止について、教科書や資料などを見たり、自分の生活を振り返ったりするなどの学習活動に進んで取り組もうとしている。 ○けがの防止について、課題の解決に向けての話し合いや発表などの学習活動に進んで取り組もうとしている。	○けがの防止について、教科書や資料を基に、課題や解決の方法を見付けたり、選んだりするなどして、それらを説明している。 ○けがの防止について、学習したことを自分の生活と比べたり、関係を見付けたりするなどして、それらを説明している。	○交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがとその予防について理解している。 ○けがの手当てについて理解している。

6 学習指導計画（5時間扱い）

小単元	時	ねらい	学習活動
事故やけがの原因	1	○毎年多くの事故が起こり、けがをする人や死亡する人が少なくないことを理解できるようにする。 ○事故やけがは、人の行動の仕方と回りの環境がかかわり合っ起こることを理解できるようにする。	○学校生活や身の回りの地域で、危険だと思ふ場面を探す。 ○事故やけがの原因について話し合う。 ○事故やけがの原因を「人の行動」「回りの環境」という観点でまとめる。

学校や地域でのけがの防止	2	○学校や地域で起こるけがを防止するには、安全に行動することや、環境を安全に整えることが必要であることを理解できるようにする。	○学校や地域で起こるけがの防止策について話し合う。 ○事故を予測し、その防止策について考える。 ○事故防止のための環境整備について話し合い、今後の生活に役立てたいことを発表する。
交通事故の防止	3	○交通事故を防止するには、危険予測や交通ルールを守るなどの安全な行動と、安全施設などの環境や、交通規制などが必要であることを理解できるようにする。	○「小学生の交通事故の原因」のグラフを見て、事故の原因について考える。 ○具体的な場面から交通事故を予測し、防止策を考える。 ○安全施設・整備、交通規制の役割を知る。
犯罪被害の防止	4 (本時)	○犯罪被害を防止するには、犯罪が起こりやすい場所を避けたり、犯罪に巻き込まれそうになったらすぐに助けを求めたりすることが必要であることを理解できるようにする。	○犯罪被害の起こりやすい場所について考える。 ○犯罪被害を予測し、防止策を話し合う。 ○犯罪被害の防止についてまとめる。
けがの手当	5	○けがをした時には、けがの種類や程度などの状況を速やかに把握して処置することを理解できるようにする。 ○自分でできる簡単なけがの手当の仕方を理解できるようにする。	○具体的なけがの場面から、手当の仕方について考える。 ○正しいけがの手当の仕方を養護教諭より聞き、手当のポイントをまとめる。 ○けがをしたと仮定して、実際に手当をする。

6 本時の指導

(1) 目標

- 犯罪被害の防止について、課題解決に向けての話し合いや発表に進んで取り組むことができる。
- 犯罪被害の防止について、学習したことを自分の生活と比べたり、関係を見付けたりするなどして、それらを説明することができる。
- 犯罪被害を防止するには、犯罪が起こりやすい場所を避けたり、犯罪に巻き込まれそうになったらすぐに助けをもとめたりする必要があることを理解することができる。

(2) 展開

学習内容と活動	教師の指導・支援 (○) と評価 (◇)
<p>1 学校や地域でのけがの防止や交通事故の防止の学習内容について確認する。</p> <p>2 本時の学習内容を知る。</p>	<p>○けがや事故が起こる原因は「人の行動」と「環境」がかかわること、学校や地域で起こるけがを防止するには、安全に行動することや、環境を安全に整えることが必要であることを確認する。</p> <p>○犯罪の内容を誘拐や暴力であることを共通理解するために学級全体で確認する。</p>
<p>犯罪被害を防ごう</p>	
<p>3 犯罪被害に遭遇しかけた経験、怖いと思った経験、誘拐や暴力などの犯罪について知っていることを話し合う。 「塾から帰ってくるときに後をつけられたきがした」 「ニュースで小学生が誘拐させたのを見た」</p> <p>4 犯罪被害の起こりやすい場所について考える。</p>	<p>○自分の生活と結び付けて考えるよう促す。 ○学校からの不審者情報など、自分たちと同じ小学生が、被害にあったり身近な地域で起きたりした事例を想起させる。</p>
<p>どんな場所で犯罪が起きているかを知って、これからの行動にいかそう</p>	
<p>発問 誘拐や暴力などの犯罪が起こりやすいところ、安全なところはどんな場所だろうか。</p>	
<p>・知っていることを発表する。</p> <p>・公園、駐車場、住宅街、マンションの中庭、校庭、ゲームセンター、子ども110番の家の中で、犯罪被害が起こりやすい場所はどこか、安全な場所はどこかグループで話し合う。 「この駐車場は人通りが少ないから危険だよ」 「マンションの中庭は、住んでいる人や管理人さんが見ているから安全だね」 「同じ公園でも昼間より夕方は人が少なくなるから危険なんだね」</p>	<p>○意見の共通点や相違点に気付くことができるようにするために、犯罪被害が起こる理由や安全と思われる理由を書き込めるようグループ用のワークシートを活用する。</p> <p>○グループの中で誰の意見かを明確にするために、グループの人数分のカラーシールを活用する。</p> <p>○グループ用のワークシートを見て、グループ中で意見が言えていない子がいないか、特定の子どもの意見だけになっていないかを確認する。</p> <p>○発言に偏りのある場合はグループに入って、意見を言えていない子に発言を求める。</p> <p>○同じ場所でも、時間帯によって危険から守ってくれる人がいるときといないときがあることに気付いていない場合は、公園の2枚の写真（昼間人がたくさんいるものと夕方誰もいないもの）を提示して、時間帯についても気付くことができるようにする。</p>

<p>5 グループで話し合ったことを発表し、犯罪が起りやすい場所、安全な場所についてまとめる。</p> <p>犯罪が起りやすい場所： 人気のないところ 暗いところ まわりが見えにくいところ いたずら書きやごみがあるところ</p> <p>安全な場所： 人がたくさんいるところ 明るいところ 見通しのよいところ 整理されてきれいなところ</p> <p>6 犯罪被害を防止するにはどうしたらよいかを話し合う。</p>	<p>◇話し合いや発表などの学習活動に進んで取り組もうとしている。(関心・意欲・態度)</p> <p>○いたずら書きやごみがあるところも危険な場所であることを伝える。</p> <p>○子どもの理解を深めるために、安全な場所も取り上げる。</p> <p>○防犯灯や子ども110番の家、防犯パトロールなど安全な環境をつくることも必要であることを伝える。</p>
<p>発問 犯罪にあわないようにするためにはどうしたらよいのだろうか。</p>	
<p>・それぞれのグループで話し合う。 「危険な場所に行かないようにする」 「一人では遊ばない」 「暗くなる前に家に帰る」 「いかのおすしを守る」 「すぐに助けを呼ぶ」</p> <p>7 話し合ったことを発表する。 ・代表的な意見を黒板に掲示し、発表する。</p> <p>8 学習したことを振り返り、犯罪被害を防止するために大切なことをまとめ、自分にできることを考える。</p>	<p>○具体的に思考できるようグループ用のワークシートをもう一度活用する。</p> <p>○前時までに学習した「人の行動」と「環境」を視点に考えることができるよう、付箋紙の色を変える。</p> <p>◇学習したことを自分の生活と比べたり、関係を見付けたりするなどして、それらを説明している。(思考・判断)</p> <p>○今までの学習同様に、犯罪被害を防止するためにも「人の行動」と「環境」がかかっていることを確認する。</p> <p>○犯罪に巻き込まれそうになったときは、助けを求めることも必要であることを説明する。</p> <p>◇犯罪被害を防止するために理解したことを、言ったり、書いたりしている。(知識・理解)</p>
<p>まとめ 犯罪被害を防止するには、犯罪が起りやすい場所を避けたり、犯罪に巻き込まれそうになったらすぐに助けをもとめたりすることが必要である。</p>	

